

令和5年度 江戸川区立瑞江第三中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 【知】自ら学んで、自己を高める生徒<知性> 【徳】人を大切にして、共に生きる生徒<敬愛> 【体】心身が健やかで、 	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> 全ての生徒の学ぶ権利を保障し、全ての生徒の可能性を伸ばす学校 Leave no one behind (誰一人取り残さない) 実践力のある生徒 ・他者とのかわりを大切にする生徒 ・自己と向き合える生徒 全ての教職員が、教育の専門家として成長できる学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ・学び合いやタブレット端末を活用した授業を促進できた。・週1回の特別支援および生活指導校内委員会において情報共有を図り、早めの対策をとることができた。 <課題> ・超過勤務の常態化を是正する。・生徒がそれぞれのテーマをもって取り組む探究活動を計画的に行う。		

教育委員会重点課題	<取組項目> ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<教師による授業改善> ・「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善	・「子供たちが安心して夢中になって学ぶ授業」の創造 ・「学び合い」「共有」「ジャンプ」の授業デザイン ・「深い学び」の研究(SDGs・ESD、現代社会の課題、生活場面等を取り入れた単元や授業)	・授業見学(年3回) ・研究授業(年3回)	B	B	<成果> 授業見学および研究授業を年3回行い、授業における課題に取り組むことができた。 <課題> 「共有」から「ジャンプ」の課題の設定の研究	A	基礎学力をしっかり身に付けられるようにしてほしい。 教職員に身に付けられるよう研修を継続していく。	個別最適、学び合いを中心とした授業デザインの方が教職員に身に付けられるよう研修を継続していく。
	<基礎基本の定着> ・組織的な取組による補充学習と家庭学習の定着	・一人1台端末の有効活用 ・数学・英語補習の活用 ・家庭学習の定着	・定期考査ごとの補習教室の入れ替え	B	B	<成果> 一人1台端末の活用が推進された。 <課題> 家庭学習の定着	A	タブレットを有効活用している。	家庭学習の定着化を図る。
	<教科等横断的教育課程の構築> ・道徳科におけるローテーション指導 ・総合的な学習の時間 ・読書科の充実	・教科領域のつながりを明確化 ・ESDカレンダー(単元配列表)の作成 ・ローテーション道徳の実施 ・読書科における探究的な学習の充実	・道徳地区公開の実施 ・年内にESDカレンダーの完成 ・校外学習、宿泊行事の事前事後において、探究的な学習に取り組む。(各学年1回以上)	B	B	<成果> ・ローテーション道徳の実施 <課題> ・探究的な学習の充実	B	読書を深めてほしい。	探究的な学習を継続的に行っていくために、各学年の校外学習における事前事後学習の見直し。
体力の向上	<体育健康に関する指導の充実> ・東京都体育健康教育推進校としての取組	・生活改善週間の実施 ・「生活改善カード」の作成 ・睡眠、食育のゲストティーチャーによる授業の実施 ・スポーツクラブとの連携授業 ・保健体育科の授業の充実	・学期1回、2週間の生活改善週間の実施 ・年2～3回の外部講師による健康に関する授業の実施	A	A	<成果> ・スポーツクラブとの連携授業と保健体育科の授業の充実 <課題> ・外部講師による健康に関する授業は来年度実施	A	スマホやタブレットを使う時間を改善できるよう指導ができることよい。	外部講師と連携をし、R6年度は眼育、食育を行う予定であるが、スポーツクラブやその他、今年度の反省を活かしながら、生徒が興味関心を持つだけでなく、持続可能な内容を計画していく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・発達特性への適切な支援 ・発達支援的及び課題予備的生活指導の充実	・ソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターの効果的な活用 ・特別支援委員会や巡回指導報告による情報共有と具体的手立ての立案 ・関係機関との積極的な連携	・週1回の特別支援委員会の開催 ・週1回のSCとの連携	B	B	<成果> ・週1回の校内委員会において情報共有を図り、今後の指導方針について話し合うことができた。 <課題> ・さまざまなケースに関する具体的な対応体制を整備	A	課題のある生徒への対応やいじめ、不登校に関する指導の充実を図ってほしい。	特別な支援を必要とする生徒が増えているため、教員の体制や指導方針等を見直しと指導の工夫を図る。
	<人権教育の充実> ・LGBTQの理解促進	・LGBTQに関する授業の実施	・LGBTQ理解度を90%以上にする。	A	A	<成果> ・外部講師を招聘して、「自分らしく生きる」をテーマに、講演を行った。 <課題> 人権意識の向上	A	外部人材を有効活用してほしい。	人権作文や外部講師による講演など、自分も相手も大切にできる言語環境を整える。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校の初期対応の徹底と自立支援の充実 ・いじめの早期発見・早期解決 ・自己指導能力と自己有用感の育成	・エンカレッジルームの活用 ・SCやSSWとの連携強化 ・QUの実施および結果分析による深い生徒理解 ・学級活動、生徒会活動、行事等を通じた自主的、実践的態度の育成	・年2回のQUの実施 ・年2回のQU研修による分析 ・行事ごとに「PDCA」を意識した自己及び集団の振り返りを実施	A	A	<成果> ・QU分析研修会を行うことで、学年・学級に必要な手立てを考えることができた。 <課題> ・特別支援や不登校、いじめに関するより具体的な方策や手立ての構築	B	不登校やいじめ対策の充実を図り、いじめを根絶してほしい。	不登校やいじめ等、長引く課題に関する指導の工夫改善と生徒が過ごしやすい環境の整備を計画する。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校の取組の積極的な公開> ・学校公開の実施 ・ホームページの充実	・学校公開および道徳地区公開の実施 ・学校情報の積極的な発信	・年3回の学校公開実施 ・月1回以上のホームページ改稿	A	A	<成果> ・昨年度以上に情報発信をすることができた。 <課題> ・情報発信方法の工夫改善	A	学校での生徒の活動を積極的にPRする。	HPが変更されたことをきっかけに、教職員が積極的に情報発信できるようにする。
	<保護者・地域との積極的な連携> ・近隣小学校との連携 ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・近隣小学校の児童を対象にした授業公開や部活動体験の実施 ・保護者や地域と連携した、地域ボランティア活動に参加 ・学校評議員会の開催と学校関係者評価の実施、分析および改善計画	・小学生向け授業体験(年1回) ・小学6年生保護者対象学校説明会の開催(年2回) ・地域ボランティア活動(年2回以上)	A	A	<成果> ・PTAと教職員だけでなく、生徒も交えた交流をすることができた。 ・積極的なボランティアへの参加。 <課題> ・学校評価の結果分析を次年度に活かす。	B	地域に開かれた学校、学校施設の有効活用を。	PTAと生徒のコロナボランティア計画を実行に移すための準備を着実に進める。
特色ある教育の展開	健康で活力に満ちた生活をデザインする力の育成	・TOKYO ACTIVE PLA for students (TAP)に基づいた体育健康教育推進校としての取組の実施	・外部機関との連携により授業の実施(年3回以上)	B	B	<成果> ・生活改善週間の振り返りができた。 <課題> 上記の結果を基に、実際に改善されるような取組の工夫	A	生徒の体力向上がさらに推進されることを期待する。	体育健康教育推進校2年目となる次年度に向けて、発表の企画、準備を遂行していく。